



金融商品ガイド

相次ぐ新興国ファンド 設定で得する人は!?

新 興国に集中投資するファンドがひとつの大きな流れを形成しつつある。その象徴がBRICSファンド（ちなみにBRICSの「S」は複数形ではなく南アフリカ共和国のことと解すべしと言う人もいる）であり、最近設定されたファンドでは「新興国コース」と銘打たれたファンドや「韓国ファンド」「インド株ファンド」などが該当する。

ところで、新聞紙上で「アジア・オセアニアの好配当利回り株に投資するファンドの取り扱いを開始」といったニュースを見たでしょうか。あるいは「BRICSファンド」や「新興国ファンド」または「インドファンド」に関するニュースでもよいのだが、いずれにせよこの手のファンドは毎月のように新規設定されており、この種のニュースを目にされると大多数の方は「ああ、投資対象として新しい商品が登場するのね」と思われることだろう。つまり「選択肢が増えた」と。

しかし私はそうは考えない。この種のニュースを目にする、「このファンドが新たに設定されることによって、どんな人が得をするのか」と考えるのだ。ただし、ここで言う「得をする人」とは設定・運用会社など売り手ではなく、こうした投資対象が絞り込まれたファンドの設定で恩恵を受けるのはどんな人か、と反射的に考えるわけだ。もうおわかりだろう。こうした投資対象が絞り込まれたファンドの新規設定により恩恵を受けるのは、「すでに同種の投資対象に投資している

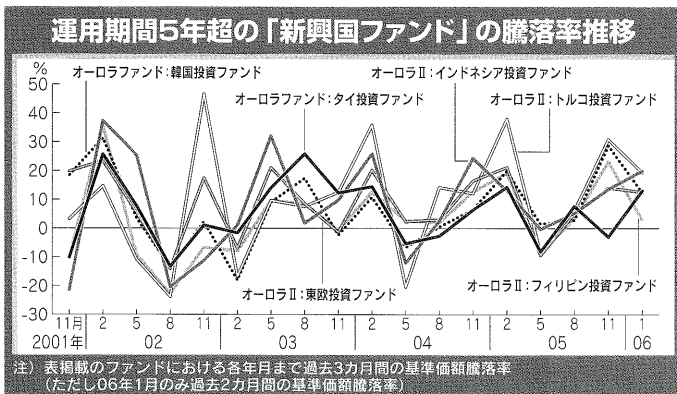
と

「選り好みが増えた」と。

「ああ、投資対象として新しい商品が登場するのね」と思われることだろう。つまり「選択肢が増えた」と。

しかし私はそうは考えない。この種のニュースを目にする、「このファンドが新たに設定されることによって、どんな人が得をするのか」と考えるのだ。ただし、ここで言う「得をする人」とは設定・運用会社など売り手ではなく、こうした投資対象が絞り込まれたファンドの設定で恩恵を受けるのはどんな人か、と反射的に考えるわけだ。もうおわかりだろう。こうした投資対象が絞り込まれたファンドの新規設定により恩恵を受けるのは、「すでに同種の投資対象に投資している

ファンドの購入者」なのだ。この考え方は少なくとも確率的には正しいだろう。なぜなら、この手のファンドの設定により、投資対象となるべき関連銘柄の需給バランスは確実に好転し、それは間違いなく株価上昇要因となるためだ。実際には、1カ月から2カ月程度かけ、目論見書にうたわれた運用方針が貫徹できるようにポットフォリオが組成される。この間には、運用担当者の相場観とはかかわりなく、つまり買った後に株価が下がる可能性が大きいと思



運用期間5年超の「新興国ファンド」である野村アセットマネジメント「オーロラ」「オーロラⅡ」の騰落率

ファンド名	純資産額 (100万円)	基準価額 (円)	騰落率 (%)					期間5年騰落率順位 (位)	
			1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年		5年
タイ投資ファンド	11,891	3,685	6.1	13.9	14.1	14.2	109.6	124.5	48
韓国投資ファンド	1,937	21,735	1.9	32.3	38.2	74.1	146.8	200.0	18
インドネシア投資ファンド	765	8,857	9.8	25.5	8.5	27.7	186.2	225.0	12
フィリピン投資ファンド	475	3,221	3.8	17.8	23.4	24.1	109.3	27.3	403
東欧投資ファンド	19,843	27,607	9.8	23.3	37.1	70.8	223.8	272.0	5
トルコ投資ファンド	10,305	18,467	15.2	47.3	55.4	91.6	381.4	130.0	46

注) 運用期間5年超の新興国ファンドの例として、野村アセットマネジメントが設定・運用する「オーロラ」または「オーロラⅡ」の名を冠するファンドの2006年1月末時点における各投資期間の騰落率(分配金の再投資は考慮せず)を掲載。期間5年騰落率順位は2006年1月末時点で運用期間5年超の約1000ファンド全体における順位

た場合でも、あらかじめ目論見書にうたった投資方針に即して所定の関連銘柄を買わなければならない。

だからこそ「新規設定ラッシュ」となっているファンドと投資対象を同じくする既存のファンドを買うこと」とこそ高いパフォーマンスをあげられる可能性が大なのだ。

「新規設定ラッシュ」で「既存ファンド」に恩恵

実は新興国に投資するファンドそのものは新しくもなんともない。たとえば野村アセットマネジメントが5年以上にもわたり運用している新興国ファンドがある。

その騰落率を図と表に示したが、なかなかの運用成績であり、期間5年騰落率順位は総じて上位にあることがおわかりになるだろう。

堅調な世界経済の動きのなかにあって新興国の当面の経済ならびに為替については心配ないだろう。となれば「新興国へ集中投資するファンドの新規設定ラッシュ」がこうした既存ファンドの運用成績を押し上げてくれる、とみるべきだ。株式相場の格言でいう「買いが買いを呼ぶ」だ。